

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 24 年 3 月 29 日 (2012.3.29)

【公開番号】特開 2010-280746 (P2010-280746A)

【公開日】平成 22 年 12 月 16 日 (2010.12.16)

【年通号数】公開・登録公報 2010-050

【出願番号】特願 2009-132914 (P2009-132914)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

C 0 8 F 290/06 (2006.01)

C 0 9 K 3/10 (2006.01)

H 0 1 F 37/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 2/44 Z

C 0 8 F 290/06

C 0 9 K 3/10 E

C 0 9 K 3/10 Q

C 0 9 K 3/10 L

H 0 1 F 37/00 J

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 2 月 6 日 (2012.2.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

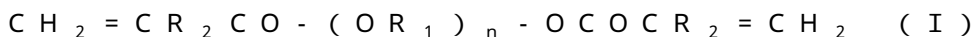
【請求項 1】

(a) 多官能(メタ)アクリレートと、(b) 高熱伝導率充填材と、(c) 硬化剤とを含有する熱硬化性樹脂組成物であって、

前記(b) 高熱伝導率充填材の含有量が、前記(a) 多官能(メタ)アクリレート 100 質量部に対して 800 ~ 1600 質量部であることを特徴とする熱硬化性樹脂組成物。

【請求項 2】

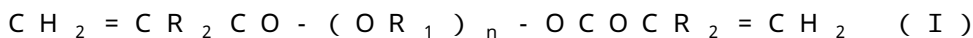
前記(a) 多官能(メタ)アクリレートが、下記式(I)：



(式中、n は 1 以上の数であり、R<sub>1</sub> は炭素原子が 1 ~ 14 個のアルキレン鎖又はポリメチレン鎖であり、R<sub>2</sub> は水素又はメチル基を示す) で表される二官能ジ(メタ)アクリレートであることを特徴とする請求項 1 に記載の熱硬化性樹脂組成物。

【請求項 3】

前記(a) 多官能(メタ)アクリレートが、下記式(I)：



(式中、n は 1 以上の数であり、R<sub>1</sub> は炭素原子が 1 ~ 14 個のアルキレン鎖又はポリメチレン鎖であり、R<sub>2</sub> は水素又はメチル基を示す) で表される二官能ジ(メタ)アクリレートと、エポキシ(メタ)アクリレートとから成ることを特徴とする請求項 1 に記載の熱硬化性樹脂組成物。

【請求項 4】

(d) 熱可塑性樹脂、(e) 低収縮剤、(f) 湿潤分散剤、及び(g) 繊維材料からなる群より選択される 1 種以上の成分をさらに含むことを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれ

か一項に記載の熱硬化性樹脂組成物。

【請求項 5】

2.0 W / m · K 以上の熱伝導率、及び 0.1 % 以下の成形収縮率を有する硬化物を与えることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の熱硬化性樹脂組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の熱硬化性樹脂組成物の硬化物。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の熱硬化性樹脂組成物の硬化物で封止してなることを特徴とする電気電子部品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

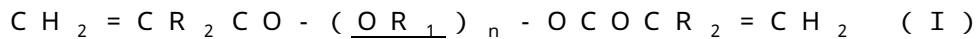
【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

中でも、硬化物の熱伝導性及び成形収縮をより一層改善する観点から、(a)多官能(メタ)アクリレートは、下記式(I)：



で表される二官能ジ(メタ)アクリレートであることが好ましい。式中、n は 1 以上の数であり、R<sub>1</sub> は炭素原子が 1 ~ 14 個のアルキレン鎖又はポリメチレン鎖であり、R<sub>2</sub> は水素又はメチル基を示す。